

# みどり通信

第53号  
2026年3月1日

2026

3

令和8 弥生



春の日に

逆川の土手

猫柳

手折ってくれた

猫柳

楽しいね

タントンたんと

音がする

## 「思春期」

あきのふみこ

春の日と河原の猫柳の思い出は、今、思うと14歳、思春期そのものと思う。

両親は忙しく自分のことで精一杯、でも見守られている感じはあった。<うるさい！>と試みたり黙ってみたり、友だちには、いい顔をしていた。

躰の変化にも戸惑っていた。

ただ、ピアノは進むし絵は描きたくなるし、やりたいことばかりだった。

祖母は15歳で嫁入りしている。

母の女学校前の話は聞いたこともない。

自分の子は男ばかり。

母には反抗もした。よそのお母さんの良い所を並べたてた。

猫柳は挿し木で簡単に育つ。

思春期に手にした猫柳は挿し木した。

1メートルにもなったが、引っ越しの時そのままにしてしまった。

## 「べてる」

秋野文子

じんかれんニュースにラジオ深夜便、べてる、向谷地生良(むかいやちいくよし)さんが載っていた。

懐かしい。

15年位前に、当事者研究を相模原でも毎月やっていて、当事者、家族、支援者が対当な関係で進められる会だった。

みどり会メンバーの娘さんで北海道、浦河町のべてるの家に行っている人がいた。

ホワイトボードを使って当事者研究は行われ、活発で楽しい会だった記憶がある。

## 「小田原城」

秋野文子

関東大震災で壊れた小田原城は昭和 35 年に造り直した。

住民が寄付を集め、行政に働きかけて再建された。

ボトムアップの政治、住民の暮らしの向上をも目指したことだろう。

## 「死んだらどうなるのだろう」

ふぁ爺

死んだらどうなるのだろう、とよく聞く。身体が死んでも魂は残って天国へ行けるのだろうかという心配らしい。

身体が滅んでも魂は存在し続けるのか？いやいや、心は脳の働きで生じているのだから、脳が死んでしまったら無くなってしまわないのか。

生きている今は、たしかに意識は存在しているけれど、これはモノではない。では何か、と考えると「現象」としか言いようがない。「われわれ」とは現象なのだ。

脳から意識が生じるのは全くの謎とされているが、自分とは現象であると考えれば、居心地は悪いものの、ある程度納得できるような気がする。

脳の活動から生じているのは、われわれの意識だけだろうか。ほかにも目に見えない存在が生じているかも知れない。

※ 例えば「炎」はモノではない。そこにある物質は炭素と酸素である。炎は現象である。



実生の椿

## 編集後記

なごり雪あり汗ばむ陽気の日あり、なかなか難しい時。  
桃の節句、足元には、カタバミ、オオバコ、畑には菜  
の花と春の息吹が感じられる。

小さな足元の植物、つくし、すみれ、たんぽぽを探し  
たい。

秋野

midori2shin@gmail.com

